

〔巻頭言〕

## ジャーナルオブファミリーナーシング (Journal of Family Nursing) との抄録交換始まる

東京大学大学院医学系研究科 家族看護学分野

上別府圭子

アメリカ合衆国の中北部ミネソタ州の都市ミネアポリスで開催された第11回国際家族看護学会の折、2013年6月のことである。ミシシッピ川クルーズでのギャラディナーを待つ間、デキシード・ジャズの生演奏を楽しみながら、世界各国から集まった参加者たちは、乗船前に配られた『人探しゲーム』に余念がなかった。あらかじめ印刷された10の条件にそれぞれ合う人を見つけて、サインを集めるゲームだが、参加者間のコミュニケーションの促進、親睦が目的であることはもちろんである。一番の難問はたしか、「雪を見たことがない人」。東南アジアから参加された方が「私は見たことがない」とつぶやくと、その方の周りに署名を求める参加者の列ができた。そして「ジャーナルオブファミリーナーシング (以降JFN) に論文が掲載されたことのある人」。筆者はちゃんとベル先生から署名をいただいた。

皆さんは、JFNという専門誌を手にしたたり、ベル先生にお目にかかったりしたことがおありだろうか？ JFN青いスタイリッシュな装丁で小ぶりでも手に取りやすい。家族看護学に関する唯一の国際誌で、1995年に創刊、発行元はセイジ (SAGE) 社という世界有数の学術誌を手掛ける出版社、年4回の発行となっている。内容は家族の健康に関する実証的、理論的分析にとどまらず、看護研究、実践、教育、政策問題までカバーしている。学際的、国際的、協働的視点に立ち、文化的多様性や全ライフサイクルにわたる家族を研究するものである。学術誌に掲載された論文の引用数を元に計算され、その学術誌の評価の指標とされているインパクトファクターという数字でいうと1.342で、家族研究関連の学術誌40中15位、看護関連の学術誌110中27位ということである (2014年)。

ベル先生は、JFNの創設編集者であり、国際家族看護協会でも活躍されている家族看護界の国際的リーダーのおひとりである。ライト先生とともにカナダのカルガリー大学のラボを基地に、家族看護学の創

始、発展に寄与された。現在でも、世界のあちこちでセミナーを開催し、家族看護学の啓発に貢献している。日本でも複数回、セミナーを開催してくださっているので、ご存じの会員も多いと思う。ベル先生はライト先生とともに、イルネス ビリーフモデルを開発され、基礎的な家族看護学に加えてアドバンスな家族看護学として普及に努めておられる。ベル先生によるとビリーフは家族の健康と癒しの中心をなすものである。家族の誰かが疾患を患ったときに、家族や臨床家のビリーフは、病いの苦悩を招きもするし病いの苦悩を和らげもする。家族介入の目標は、病いの苦悩を和らげるということ (詳しくは成書)。

実はこの国際学会の直前に、JFNの発行元のセイジ社の副社長ボブ・ハワード (Bob Howard) 氏とわれらが日本家族看護学会の石垣和子理事長との間に大事な契約書が交わされていて、ミネアポリスの学会場で編集長のベル先生と確認のためのミーティングをもった。これが今号で実現した、JFNと本誌 (家族看護学研究) との抄録交換というわけだ。家族看護学研究の創刊もJFNと同じ1995年であるから、他国に類を見ない歴史と活動が評価された。そののち本日まで間に、ベル先生と本誌側の窓口を務めた筆者との間に、どんなに興奮に満ちたやりとりが展開されたか紹介したいところだが、1, 2に留める。ベル先生はこれを先例のない (unprecedented) 心躍る (exciting) 交換と呼び、「この重要な協働により私たちは家族看護学に新たな歴史を築こうとしている」と表現されている。

本誌により、世界の家族看護学の風を楽しんでいただけると幸いである。また家族看護学研究から選ばれた抄録 (英文) は11月発行のJFNに掲載される予定である。この抄録交換により日本の家族看護学の研究や実践が、国際的に認知される機会を増す。どんな化学反応が起きるか楽しみである。(選考された抄録については学会HPを参照されたい)